

安曇野市上下水道事業経営審議会 会議概要

- 1 会議名 令和8年度 第1回 安曇野市上下水道事業経営審議会
- 2 日時 令和8年7月15日（水） 午後2時から午後3時50分まで
- 3 会場 安曇野市役所本庁舎 306会議室
- 4 出席者 保尊委員、二木委員、猿田委員、勝家委員、手塚委員、赤沼委員、齋藤委員、加々美委員、阿部委員、田中委員
- 5 市側出席者 北條上下水道部長、藤森経営管理課長、林庶務担当係長、小松庶務担当係長、重野上水道課長、本田維持係長、宮澤工務係長、豊田管理係長、中村下水道課長、曾山下水道担当係長、木村下水道担当係長（剣持課長補佐）
- 6 公開・非公開の別 一部公開
- 7 傍聴人 0 人 記者 0 人
- 8 会議概要作成年月日 令和8年7月31日

協 議 事 項 等

○会議の概要

- 1 開会
- 2 上下水道部長挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 委嘱書の交付及び自己紹介（経営審議会委員及び事務局職員）
- 5 議事
 - （1）令和8年度予算について
 - （2）水道事業アセットマネジメントについて（非公開）
- 6 その他
- 7 閉会

○議事の概要

5 議事

- （1）令和8年度予算についての説明
（資料に沿って事務局から予算概要により説明）

<質疑>

委員： 上水道老朽管更新工事、令和7年度比で令和8年度予算が約9,000万円減少している点について、資材高騰・技術者不足等の理由なのか、水道ビジョンの目標を満たすのに、この予算水準でよいか。ビジョンの目標達成をどう考えているのか確認したい。

事務局： 予算減の理由は、資材高騰や職員不足ではなく、7年度から継続して行っているものが当初予算に入っていない。また、水道ビジョンでは老朽施設・更新事業の目標額が設定されているが、他部署の道路改良工事などで支障になる水道管移設等、当初予定していなかった工事が入ると、計画していた更新工事を翌年度へ繰越し、更新計画が遅れていく。

委員： 下水道統廃合事業、明科処理区の進捗について８年度で接続されると解釈してよいか。また、工事完了後、路面復旧（舗装）が残る程度で、管路としては接続状態になるのか。

事務局： 生野浄化センター、明科浄化センターの汚水を流域下水道（アクアピア）に接続するのは令和８年度末完了予定。今年度工事を進めているが、不測の事態発生時は若干の遅延の可能性はある。

委員： 水道事業の有収率の関係。令和６年度有収率75.1%、８年度の目標として84.83%となっている。実際、７年度の有収率はもう出ているのか。この84.83%は、可能な数値なのか見通しを教えてください。

事務局： 令和７年度の有収率は、直近集計で74.7%、前年差▲0.4ポイント。令和５年度（77.1%）から見ると、６年度の落ち幅（▲2.0ポイント）よりは緩やか。

令和７年度の漏水調査で明科地区の比較的大きな漏水を発見したが、発見が12月であり、効果は12月以降の１～３か月分で、有収率へ十分反映されていない。

令和７年度からは手法を変更し、漏水専門会社により「漏水の可能性が高いエリア判定」を行い、調査箇所を絞り込むなど、より効率的な発見を目指している。ただし、漏水を直しても別の箇所で再発し、数か月で有収率が再び低下することがあるため、根本的には老朽管の布設替え（更新）を進めないと改善が難しい。

委員： 有収率と漏水の関係をもっとわかりやすく説明してもらえるか。

事務局： 有収水量は、メーターを通り料金収入につながる水量。これに対し、全配水量は、配水池から供給した総量。有収水量／全配水量＝有収率。率が高いほど漏水等が少なく、無駄なく、収入につながる形で水が使われている状態を示す。

参考として、有効率という算出もある。公園の水飲み場等の無償分、消防用水等の収入にならないものが有効水量になる。

安曇野市では緊急修理が年間約200件（止水栓不良等も含む）。本管・給水管など地下部での漏水が対象になる。

地下漏水は、路面に湧出するほど大きいと発見しやすい一方、地盤条件や漏水量が小さい場合は発見が難しく、長期化し有収率を下げる。

日常的には、配水量を監視（流量計・監視システム）し、夜間流量の増加などから漏水を疑い、必要に応じて職員がエリアを歩いて調査する等の対応をしている。

委員： 長野県内の複数自治体で設置されたポケモンマンホール（ピカチュウ等）に安曇野市の名前がなく選定の経緯がわかれば。また企業PR等へのマンホール活用について教えてください。

事務局： ポケモンマンホールは観光部局が希望を出したが、安曇野市は選定されなかったと聞いている。

企業PR等へのマンホール活用について、市として具体的な計画は現時点ではない。

(2) 水道事業アセットマネジメントについて（非公開）
（資料に沿って事務局から説明）

< 質疑 >

委 員： 水道料金が県内最高と全国最高の自治体、平均の金額がわかれば教えていただきたい。

事務局： 県内最高の水道料金を設定している自治体は山ノ内町。全国最高については北海道の夕張市になる。県内平均は手元に資料がないが「200円台」と認識している。

委 員： 山ノ内町が高い理由は。

事務局： 料金が低い理由として、人口減少による利用者数の少なさ、地形によるポンプ等の設備費用。大きな違いとして、安曇野市の場合は塩素滅菌のみだが、浄水処理の追加設備などがコスト増要因になり原価が高くなっている。

委 員： 県内の各市町村で人口が減っていると報道されていたが、この給水人口の9万6,600人というベースはシミュレーションに反映しているのか。

事務局： 市の総合計画の人口推移を参考に、水道用に加工し、将来の減少を見込んだ推計となっている。